

学位被授与者氏名	齊藤 萌（さいとう もえ）
論文題目	「～ている」に相当する中国語表現についての認知意味論的な考察
論文審査結果の要旨	<p>日中両言語のアスペクト・テンスシステムの相異により、中国語母語者の日本語表現に動作の進行を表す「～ている」を除き、状態の持続を表す「～ている」・離脱現象を表す「～ている」・効力の持続を表す「～ている」・経験を表す「～ている」などを不使用になる傾向がよく見られるという指摘がある。その反面、日本語母語者のそれれに相当する中国語表現にも明らかに母語の影響のある中間言語が多数現れると言われている。従来の研究は部分的なケースに対して、かなり詳しく研究考察を行っていると言えるものの、日本語の常用動詞からカバー範囲の広い比較対照はまだそれほど進んでいない。修論としてこのような研究を選択し、認知意味論の観点から異同点を見だし、動因の分析に対して試みをするのは一定の評価が得られると思われる。</p> <p>不対応パターンに対する「未成立→成立→常態」「未経験→経験→存在」「動作→完成→結果」「未認知→認知→存続」などのまとめと「日本語は連続・静的な結果を重視するのに対して中国語は変化の境界点と動的な瞬間を重視する」などの分析は理論的な意義があり、両言語における第二言語教育の参考にもなれると考えられる。</p> <p>しかし、本論は一応修論の形式になっているが、各部分の繋ぎは自然とは言えない箇所があり、日本語の表現と両言語の対訳にも十分推敲されていないことによる誤用・誤訳が見られている。本論にとって重要な言語理論である認知意味論について論述は浅く、表面引用に止まっている。</p> <p>平成 26 年 2 月 20 日に、北九州市立大学北方キャンパス 3 号館 320 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>